

第1回 平成の御車山利活用検討委員会 次第

日時：平成30年6月26日（火）15時～

場所：高岡市役所5階 502会議室

1 開 会

2 挨拶

3 委員長・副委員長の選任

4 協議事項

(1) 平成の御車山の概要について

資料1

(2) 『「平成の御車山」利活用に関する意見書 要約版』について

資料2

(3) 委員会検討内容及び年間スケジュール（案）について

資料3

(4) 第1回委員会検討事項

資料4

① 高岡御車山会館内展示中の利活用について

② 安全性の検証について

③ 運営組織づくり・曳手の育成について

5 意見交換

6 閉 会

平成の御車山の概要について

●「平成の御車山」とは

国の重要有形民俗文化財「高岡御車山」をモチーフとして制作する、オリジナルの御車山。

●テーマ

「平和な時代 豊かなまち高岡を象徴する 前田利長公の家族」

●デザインコンセプト

高岡の地名の由来である漢詩の一節から、400年の歴史、歴史都市・高岡を表現。

『鳳凰鳴けり 彼の高き岡に 梧桐生ず 彼の朝陽に』

※ 鳳凰は壺水を飲み、竹の実を食物とし、梧桐（あおざり）の木にしか止まらなるとされる伝説の鳥

※ 朝陽は山の東面

●デザイン各案

- ・サブテーマ：「家族の絆」
- ・銚 留：鳳凰
- ・本座（人形）：前田利長公
永姫〔利長公の正室（本妻）〕
- ・相座（人形）：満姫〔利長公唯一の実子〕
- ・幔 幕：高岡古城公園の四季

平成 24 年 3～4 月、

“平成の御車山デザイン意見募集”を実施。

約 1,200 票の意見を集め、

多くの支持を得た左記の各案に決定した。

●基本デザイン案 ～ 詳細デザイン図担当

- ・公益社団法人 富山県建築士会高岡支部

●制作者

- ・高岡地域文化財等修理協会
⇒ 人間国宝・大澤光民会長のもと、
金工・漆工・木工・繊維・彫刻部門の
熟練技術者約 90 名が活躍する組織。
確かな技術で、高岡の御車山をはじめ
県内外の祭屋台等の修理を請け負う。

●制作の主な目的

- ①「ものづくりのまち高岡」の発信
- ②名工・職人が次代の後継者を育成する
「高岡の伝統産業技術の伝承」

●総制作費

- ・約 2 億 8,000 万円

●制作期間

- ・5 ヵ年（平成 25～29 年度）

●寸法

- ・高さ：約 7.8メートル
- ・幅：約 3メートル
- ・全長：約 5.9メートル
- ・重さ：約 2.6トン



「平成の御車山」利活用に関する意見書 要約版

○提出者

平成の御車山制作実行委員会（平成 29 年 12 月）

○利活用（案）

(1) 基本方針

「高岡の魅力と伝統工芸技術の継承と発信」

「平成の御車山を核とした協働精神の醸成」

(2) 利活用に向けた取り組み

① 高岡御車山会館での企画展示

花作り体験の事業化や、乗車体験に必要な物品や安全マニュアルの作成を行う。

花作り体験においては、市民ボランティアを募集し、高岡御車山保存会の指導のもと、花作り体験を実施するとともに、高岡御車山会館での通年の体験プログラム化を図る。また、旅行会社に対しても、花作り体験を含んだ旅行商品の造成を促していく。

② 平成の御車山の認知度向上

平成の御車山のチラシや制作・修理の技術を紹介するパンフレットを作成し、広く PR を行う。併せて、平成の御車山を用いた教育プログラム（児童・生徒による写生等）を促進する。

③ 安全性の検証

高岡御車山会館から曳き出し、重量、車高、耐久性等、曳き回しに耐えられるか検証を行う（曳き回し ⇒ 解体 ⇒ 損傷確認）。

④ 運営組織づくり

平成の御車山制作実行委員会を再編し、山町のような組織として「平成の御車山利活用実行委員会（仮称）」を設置する。この委員会において、お囃子やからくり動作の検討、組立から曳き回し、解体まで、また館外展示を実施するために必要な組織体制や人員、機材、物品、経費等の把握を行い、その募集方法や財源の確保・管理・運用等に係る方策について提言・提案を行う。

併せて、同委員会に技術部会と実施組織を設ける。技術部会では組立や解体、保守、曳き回し等に係る技術的提言を行い、実施組織は利活用を行う際の人員の仕切り、運用等を行う。

⑤ 人材育成

山町の曳手を指導者とし、平成の御車山の曳手の育成を実施する。

委員会検討内容及び年間スケジュール（案） 【平成の御車山利活用検討委員会】

1 事業予算

平成30年度事業予算： 1,800千円

2 委員会検討内容（案）

(1) 第1回委員会（平成30年6月26日（火））

- 平成の御車山の概要について
- 『「平成の御車山」利活用に関する意見書 要約版』について
- 委員会検討内容、年間スケジュール（案）について
- 第1回委員会検討事項
 - ① 高岡御車山会館内展示中の利活用
 - ② 安全性の検証
 - ③ 運営組織づくり・曳手の育成

(2) 第2回委員会（平成30年10月下旬予定）

- 第2回委員会検討事項
 - ① 安全性の検証⇒検証結果の報告

(3) 第3回委員会（平成30年11月下旬予定）

- 第3回委員会検討事項
 - ① 安全性の検証⇒検証結果を受け、利活用案（曳き回し・館外展示等）について検討
- ② 乗車体験の検討
- ⇒検証結果を受け、乗車体験マニュアルの作成について進捗状況報告
- ③ 報告・意見書（素案）の提示

(4) 第4回委員会（平成30年12月予定）

- 第4回委員会検討事項
 - ① 報告・意見書（案）について最終確認

第 1 回委員会検討事項（平成の御車山利活用検討委員会）

1 高岡御車山会館内展示中の利活用について

○乗車体験の検討について

乗車する人の安全性の確保（高所）と平成の御車山自体の損傷防止対策が必要。

<実施方法>

- ◆ 一定の期日での特別企画として乗車体験の実施を検討。

<実施環境>

- ◆ 職員等が終始監視・サポートできる環境が必要。
- ◆ 子どもが乗る際は親の同伴が必要。

<乗車体験マニュアルの作成>

- ◆ 乗車体験の実施にあたり、安全マニュアルの作成が必要。

<梯子の制作>

- ◆ 相座へ登るための梯子が必要。予算 750 千円。
- ◆ 手すり付きで安全なものを制作。

乗車できるのは、静止した状態のみ。
神の使いである子どもだけが乗車できるとされています。

2 安全性の検証について

高岡御車山会館から曳き出し、重量、車高、耐久性等、曳き回しに耐えられるか検証が必要（曳き回し ⇒ 解体 ⇒ 損傷確認）。（※意見書 4 ページより抜粋）

<検証内容>

- ◆ 心柱が折れない検証、銚留が落ちてこない検証の 2 点は必須。

<その他>

- ◆ 検証実験に係るスタッフ集めが必要。

3 運営組織づくり・曳手の育成について

平成の御車山の運用基準等を定め、利活用のための運営組織（山町のような組織）及び以下の人員が必要。（※意見書 2 ページより抜粋）

<人員>

- ◆ 曳手（約 20～30 名）
- ◆ お囃子奏者（笛、太鼓他） ※お囃子は未決定
- ◆ からくり操者
- ◆ 組立・解体要員 ※山町では、曳手が作業を行っている。

○平成の御車山利活用検討委員会名簿

※50音順

	団体名	役職	氏名
委員長	国立大学法人 富山大学	学長補佐	秦 正徳
副委員長	高岡商工会議所	副会頭	永田 義邦
委員	地域女性ネット高岡	会長	小泉 弘子
	高岡御車山保存会	会長	志甫 和彦
	(公社)高岡市観光協会	専務理事	島崎 勉
	高岡市デザイン・工芸センター	所長	高川 昭良
	高岡地域文化財等修理協会	木工部会長	田中 健太郎
	富山県観光振興室観光戦略課	参事・課長	田中 達也
	たかおか観光戦略ネットワーク	委員	富松 光香
	高岡伝統産業青年会	会長	和田 瞬佑

	団体名	役職	氏名
オブザーバー	高岡市生涯学習・文化財課	課長	杉森 芳昭
事務局	高岡市観光交流課	課長	長井 剛志